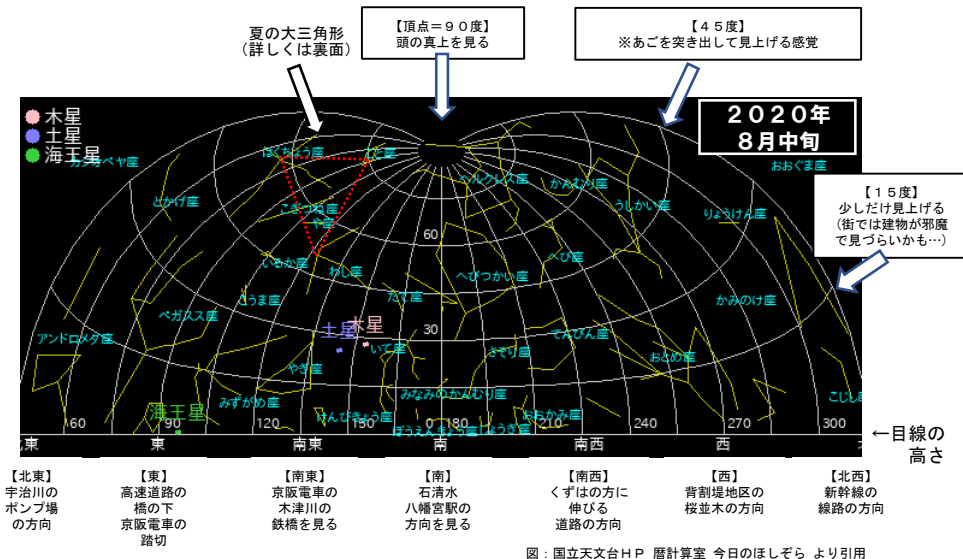


さくらであい館から見る星空観察

【さくらであい館オリジナル観察シート】



図：国立天文台HP 暦計算室 今日のほしぞら より引用

★ さくらであい館から星座はどう見える？

2020年8月中旬の夜8時ごろの夜空を、さくらであい館の前に立ったイメージで見ると上の図になります。横軸は図の中央を南とした方角、縦軸が首を上げる角度を表しています。

例えば、さくらであい館の前で、南の方向（石清水八幡宮駅の方角）を向いて立ち、京阪電車の木津川の鉄橋の方を少しだけ見上げると、土星を見つけることができます。

この図は長方形の図ですが、右にあるような丸い天体図を使って星空観察をするときには、見る方角に合わせて、天体図に書いてある方角が下になるように回して使います。（右の天体図の場合、北を向いて観察するときは、天体図の「北」が下になるように回して使う）

この観察シートでは、夏休みにおすすめの星空を観察できるように、いろいろな図や画像を国立天文台のホームページから引用しています。「ほしぞら情報」として毎月のおすすめなども紹介されているので、ぜひ自由研究に活用してみたいはいかがでしょうか。

なお、星空観察をするときは、暗い夜の道を歩く必要があります。あぶないので、こども達だけで行わずに、必ず大人の方と一緒に観察に行くようにしましょう。

★ 流れ星をお願いごとを… ～ペルセウス座流星群～

2020年のペルセウス座流星群は、8月11日(火)の夜～13日(木)の夜にたくさん見られるようになり、8月12日(水)22時ごろが1番のピークになると予想されています。どの夜も21時頃からは出るようになります。ただ、この日は月が明るく、いつもの年より見える数は少なめになりそうです。

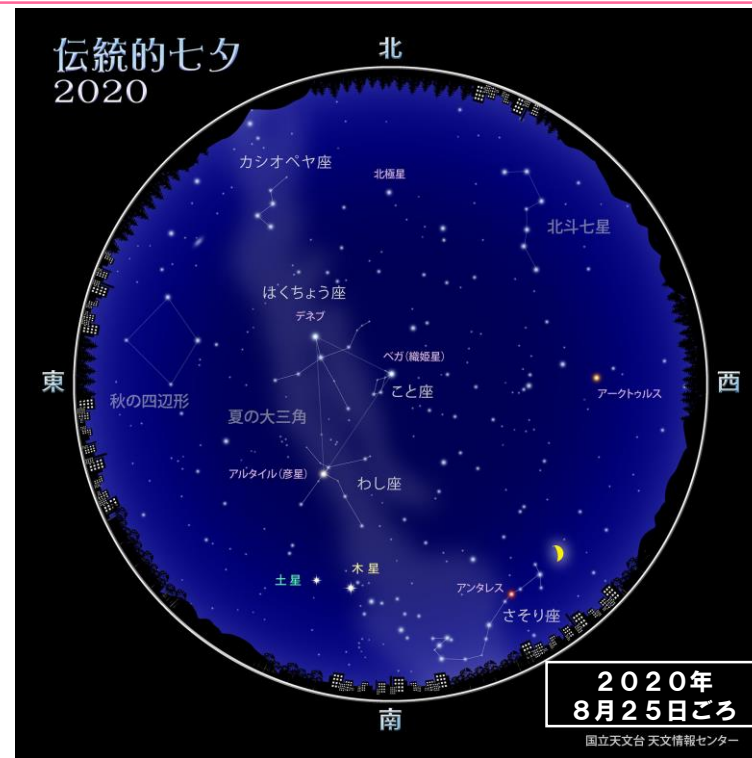
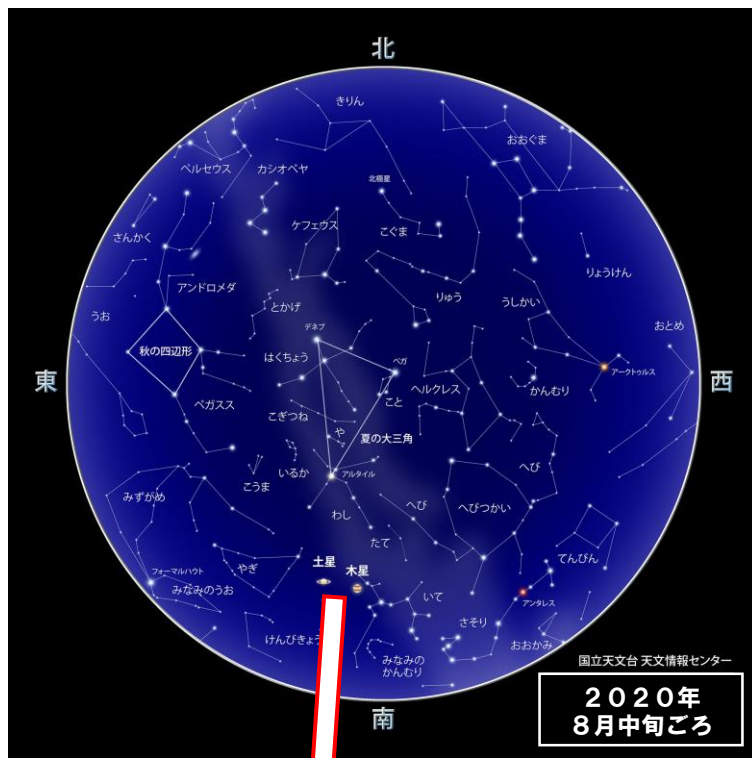
見え方としては、下の図の「放射点」を中心に空全体に広がるように現れます。星座を探す時とちがひ、月を見ないようにしながらできるだけ広い範囲で探してみましょう。



国立天文台 天文情報センター

制作：淀川河川公園管理センター（淀川三川合流域さくらであい館）
 監修：科学普及支援団体 てんもんぶ
 ※今回使用した天体図は国立天文台HPより引用し、当該HP上の画像の利用に関するルールに合わせて使用しています。
 ※本観察シートは淀川河川公園以外の方の協力もいただき、制作しています。そのため、本シートの一部または全部を複製・使用することを禁じます。

2020年夏のおすすめ



★ 木星を探してみよう

2020年7月には水星・金星・火星・木星・土星が勢ぞろいする珍しい形が見られましたが、特に木星と土星は「衝(しょう)」と呼ばれ、明るく見える時期になっています。また、太陽が沈むころに東の空から昇り、太陽が昇るころに西の空に沈むため、一晩中観察することができます。特に木星の方が見つけやすく、8月中旬の20時ごろの場合、南東～南の空、約30度の高さで見られます。

★ 天の川と七夕のお話

七夕といえば7月7日ですが、星空観察では「旧暦(太陰太陽暦)」の7月7日を指しています。現在の暦では毎年日付が違い、2020年は8月25日がその日に当たります。

この日は、夜空に星が輝きだすころに頭の真上近くに七夕にちなんだ、《おりひめ》の星、こと座の「ベガ」を見つけることができます。《ひこぼし》であるわし座の「アルタイル」は、南東よりの空で、60度くらいの高さで探してみましよう。また、暗い場所で観察するとおりひめとひこぼしの間に天の川を見つけることができます。また、はくちょう座のデネブと合わせて「夏の大三角形」と呼ばれています。

さくらであい館がある八幡(やわた)市の隣、枚方(ひらかた)市は七夕とのつながりが深く、京阪電車の枚方市駅のすぐ横を流れる「天野川(あまのがわ)」は、川の砂が白く光って美しかったことから、空の天の川になぞらえて様々な和歌(短歌)が詠まれたといわれています。

そのほかにも、枚方市～交野(かたの)市にかけて様々な七夕スポットがあるので、自由研究として星空の「天の川」と、地上の「天野川」を一緒に調べてみるのも楽しいと思います。